

【全体概要】

県内中山間地域のブランド米品種である「ミネアサヒ」は稲いもち病が発生し易く、生産安定の支障となっている。そこで、「ミネアサヒ」に稲いもち病抵抗性遺伝子を付与した「中部138号」を用い、良食味米を安定供給することで産地の評価を高め、中山間地域産のブランド米の生産安定を目指す。

新品種・新技術等の概要

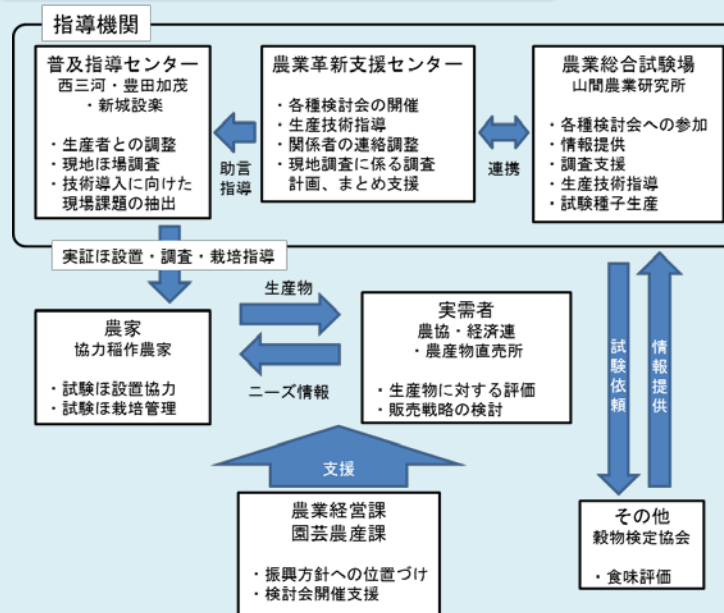
- 「ミネアサヒ」の同質遺伝子系統であり、栽培特性等は同じ。
- 外観品質・食味も「ミネアサヒ」と同等で良好。
- 稲いもち病、稲縞葉枯病に抵抗性を持つ。



主な取組内容

- 1年目
- 県内9地域で、現地展示ほを設置
  - 栽培技術マニュアル(案)の作成
  - 実需者への聞き取りによる意向調査の実施
- 2年目
- 栽培技術マニュアル(案)に基づく現地試験の実施(8カ所)
  - 産地実需者等を交えた意見交換会の開催
  - 栽培マニュアルの作成

実施体制図



・協力稲作農家は実証ほの設置協力と栽培管理を行う。  
 ・農業革新支援専門員は、普及指導センター、試験場と連携し、実証試験への助言や支援を実施。  
 ・普及指導センターは実証ほの調査を行う。  
 ・行政等は振興方針への位置づけ、検討会開催支援を行う。

実績と今後の展開

- 全ての展示ほ場で、稲いもち病薬剤無施用でも「ミネアサヒ」と同等の収量・品質を確保できることを確認した。
- 試験結果を基に、栽培マニュアルを作成した。
- 食味向上に向けた栽培試験を実施、良食味栽培技術を確立し、ブランド化を図る。